

(Lonely Night Gathering)

さみしい夜の句会報 第156号 (2024.2.11-2024.2.18)

- ◆ 参加者…しまねこくん、さー、水の眠り、汐田大輝、うつわ、夜鳥、星野響、蔭一郎、唯有(ゆう)、エミリー・メープル・ポーン、古城エツ、桂月、涼閑、花野玖、虚見津山都(そらみつやまと)、朝森たけ、みさきゆう、石原とつき、sato 守宮、西沢葉火、鴨川ねぎ、温(ぬ)、輪井ゆう、かれん、海馬、萩原アオイ、片羽雲雀、クイスケ、ヴたこ、だよ、西脇祥貴、東ころ、おかもとかも、黄泉カエル、えみ、りゆうせん、雷(らい)、もふもふ、まつりべきん、かきもちり、もりや、宮坂愛哲、岡村知昭、佐竹紫円、はゆき咲くら、石畑由紀子、みや、カゲキ・ちゃげぞう、しるとも、靈夢、石川聡、深川一平、misaki、武井窓花、ポッキ、ゆら、ゆりのはなこ、ぐりこ、misaki、花林なずな、ぴい、やーま、雪之積、ゆき、山田バチ、小仲翠太むくげ、ビーよん、あまおと、白灰、月波写生(六九名)

◆ 川柳・俳句

ルポルタージュのスープ飲む 西沢葉火
暖冬にピアノ頓服しています 石畑由紀子
大丈夫みんなチョコレート象だ 岡村知昭
大雨もドラムロールを待っている おかもとかも
自負だけの紙風船を叩き割る 片羽雲雀
菜の花は急に巡業バスになり 雷
風船を腹で温めて二個にする しまねこくん
投げキスを拾ってみれば露の臺 しまねこくん
猫のいるアトリエにいる髭の画家 海馬
目に雪をためて妻の弾くピアノ 海馬
マリリンのほくろは夜も目覚めたまま 海馬

不可能という文字のない天ぷら屋 汐田大輝
この部屋は何階？雨はどのくらい？ さー

*

君がくれたチョコとお酒とその寝顔 うつわ
草萌やインプラントを考へる 夜鳥

レース編む春愁を紡いだ糸で 星野響

下萌のおもいのほかに育つひと 蔭一郎

伊予柑よ私は八朔が好き 桂月

幸せに同居していた愛と憎 涼閑

満開の枝の下へと安吾の忌 花野玖

盗られたい傘はさつぱり盗られない 守宮

チョコレート色の君こそプレゼント 鴨川ねぎ

人は人士は土来る春違う 輪井ゆう

軒下にアンドロメダが降ってくる かれん

夢の中では虐待をしない母 クイスケ

さらさらきづゆ中島みゆき 西脇祥貴

逢引を隠す帽子をひとつ買う 東こころ

顔嵌めの人格Bがあとを引く りゆうせん

スプレーで髪を固めて春一番 もふもふ

咳止めで惨事は止まらないですか まつりぺきん

チョコの家かよマジゲロ もりや

義理チョコも俺の人生無関係 宮坂変哲

息をこらし 夜中のガレージ 切るエンジン カゲキ・ち

やげぞう

明けぬれば街灯の下のゲンゴロウ しろとも

性的な意味に於いてのみ自転車は在る 深川一平

好天に発電したる浮かれ猫 illegwort

*

三月月が匂う裏切ったのは誰？ 月波与生

◆ 短歌

「おかえり」の数だけ回ったドアノブは鍵っ子見守り錆び
ないと誓う 古城えつ

猫の毛は掃除機かけるたびに減り死んだことさえ吸い込ま
れてゆく 古城えつ

奈良で聴くバーニラバナラしめやかで観光ルール律儀に守
る 古城えつ

コンビニのスイーツ何にしようかな叱られた日の退勤時
間 水の眠り

古えの星座のように点々をつないで語るボクらの秘密 水
の眠り

はしやぎすぎたサーカスナイトそのままにわたしの月と
ダム湖にしずめ 水の眠り

仮置き希望、それから元希望 ちいさな部屋にリンドウ
と住む かきもちり

一秒に二歩進む人を見ているホントはしゃべるマリモみた
いに みさきゆう

*

睦み合うことを忘れて私たち隣り合わせのビルみたいだね
唯有

赤い傘、黒い拡声器、五本線で水桃白 君の勇色／エミリ
ー・メープル・ボーン

そうやってくすみカラーに身を包み無害な振りして世を欺
いて 虚見津山都

僕が撮る君の写真はなぜかしら愁いを帯びたえがおになっ
て 朝森たけ

そこなし星雲ないぎこぎな「天ぷらうどんと思つてよ」貼
り紙 石原とつき

身を揺らし野鳥と共に歌唄う愉しい春を我も一緒に 温ぬ

コロナ禍で出会った人はわたくしの口紅の色も知らずに口
説く 萩原アオイ

天国のあの子の話をするときと同じ回路で触れる溺れる

片羽雲雀

朝日など嫌いなんだよ青髭に飲ませた金が伝う太もも ヴ
たこ だよ

月光が浮氷のように漂った極寒の月街を凍らす 黄泉カエ
ル

マンシヨンの広告みたいあなたから空に向かって光が伸
びる えみ

心の風邪、と軽い響きが今日もまたわたしを抉る 止まな
い雷雨 佐竹紫円

ヒビ割れてどこを刺しても響かない気がするだけの日々ポ
ップコーン はゆき咲くら

世界とは海の向こうにあるというわたしひとりで越えられ
ないの みや

国府宮 裸祭りの 心意気 禪纏い 行く新男 靈夢

◆詩・短文

※ 掲載はありません。

◆作品評から

はしやぎすぎたサーカスナイトそのままにわたしの月と

ダム湖にせずめ 水の眠り

くサーカスナイト、七尾旅人ですかね？わたしも大好き
です。オリジナルはもちろん、青葉市子、向井秀徳のカバ
ーも良くて。思い出すな（石原とつき）

猫の毛は掃除機かけるたびに減り死んだことさえ吸い込まれてゆく 古城えつ

〜わーおめでとうございます！一席！！（武井窓花）

〜おめでとうございます。まだ番組を観ていなかったの
で、拝見いたします（ポッキー）

〜おめでとうございます。喪失感が迫ってきて心打たれる
お歌と思いました。（佐竹紫田）

〜おめでとうございます。下の句に喪失感が表れて、その
存在したことが失われていくなんとも言えない切なさです
ね。（水の眠り）

〜古城さん、一席おめでとうございます

「吸い込まれてゆく」が切ないですね。すごく悲しいけれど
素敵な短歌です（ゆら）

〜とても素敵な短歌で一席、おめでとうございます。私も
猫を飼っていますが、とても心に刺さりました。おめでと
うございます！（ゆりのはな）

〜えつさん！おめでとうございます！[㊦]

悲しみと喪失感が薄まっていく過程の表現が素晴らしいと
思いました。そう、毛がね…いつまでもどこからか出てく
るんですね…。うちはチンチラ（齧歯類）でしたが…。

（ぐりこ）

〜一席、本当におめでとうございます！もう毛も出てこ
ない程前に亡くなりましたが、とても切なく思い出しまし
た。素敵な歌です（misuzu）

〜おめでとうございます！

すごく共感出来ます！その気づきを日常の中で繊細に詠ま
れている本当に素敵な歌だと思います。

うちは何代も犬を飼っているのですが前に居た愛犬の時の
ことを思い出しました。（花林なすな）

〜おめでどうございます。切なくてとても素敵です。
(びん)

〜古城さん、一席おめでどうございます！ 心に響く、
素晴らしい歌ですね。大阪市在住なんです。僕も大阪市
出身です。(やーま)

〜うちの猫が旅立ってしばらく経ってからその子のお氣
に入りの毛布を洗ったら洗濯槽に毛玉が残って、その毛玉
捨てられなくて今も大事にしまっており。長毛の子で
した。(雪之情)

〜おめでどうございます。とても好きです。思わずうち
の猫を抱きしめました。(ZENMI)

〜録画した番組を見てて古城さんだ！って嬉しくなりま
した。本当におめでどうございます！昔実家で飼ってた猫
のことを思い出しました。(山田パチ)

〜うわ、泣けてきました。おめでどうございます！！(小
仲翠太)

〜おめでどうございます。悲しい歌です。「吸い込まれ
てゆく」のままならなさが好きです。(むくげ)

〜私も飼っていたハムスターのおがくずが死後一年くら
いして家具の隙間で見つかったとき、同じ気持ちでゴミ箱
に捨てました。後ろ髪を引かれるような気持ちだが末尾の字
余りに滲んでいて沁みました……(ビーよん)

菓子パンの空洞説にある派閥 蔭一郎

MAX のあの音させて走る野火 蔭一郎

〜2句とも着地(派閥、野火)でモヤつとする作り。
あえて狙ってるのかもしれないが。(月波与生)

ざざ降りの慚愧の森にいる人を草原で待つときどきは呼ぶ
みさきゆう

〜後半「ときどきは呼ぶ」に救われる。人はみなときど

きは呼んでほしい。(月波与生)

にわたりの卵にしてはカリフォルニア 岡村知昭
淋しさの目の奥にあるヘルシンキ みしま

〜同じような作り方ながら言葉から立ち上がってくるも
景色がまるで違う面白さ。(月波与生)

僕が撮る君の写真はなぜかしら愁いを帯びたえがおになっ
て 朝森たけ

〜「えがお」がひらがなののがとても良いです
どこか丸みを帯びた愁いなのかなと思ってみたり…(あま
おと)

古えの星座のように点々をつないで語る希望の神話 水の
眠り

六花舞う星座を模して砂浜に未来の地図をかくわたしたち
水の眠り

〜「希望の神話」というぼんやりした言葉が「地図をか
くわたしたち」と具体的になった。個人的には「古えの星
座のように点々をつないで語る」までがとても好きなので
残り7音字でなんとかするのを見たい(笑) (月波与生)

定位置に立てばさみしい蝶番 上崎

〜建具を開閉できるようにする部品を「蝶番 テフツガ
イ」と最初に呼んだのは室町時代の人のようで趣のある言
葉だ。定位置でない役目を果たせない蝶番の哀しみ。

(月波与生)

〜蝶番というのは蝶の形をした建具を支える部品であり
およそ2つのプレートが1つになって折り畳まれる形で
使われる。1つが欠けていると折り畳むことができずに部

品としての価値もない。定位置に立つことによって可視化されるあるはずのものや人というのはあると思うのです。私はこの句からは悲壮感を感じられない。さみしいと言葉にはしながらも堂々と定位置に立っているのではないか。
(かれん)

奈良で聴くバーニラバニラしめやかで観光ルール律儀に守る 古城えつ

バーニラバニラにクスツとしてしまいました(白灰)